

本県ゆかりの文学作家を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えるとともに、県民の文学への関心を高める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき、県関係の作家の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

・県立の施設という信用と、日頃からの関係者との親交を通じて、寄贈資料は増加しており、令和元年度末時点で 76,360 点(前年度末から比べ 1,999 点の増加)

<R 元年度の主な寄贈資料>

宮尾登美子の珊瑚帯留等 10 点、寺田寅彦・夏目漱石・正岡子規ら書簡等 73 点、大岡昇平草稿 2 点、宮尾登美子原作ドラマの制作当時の視聴覚資料等 58 点 等

1) 体制の確保

・資料班の契約職員 2 名が取り組んでおり、着実に資料整理、保存を進めている。

2) 展示保存の技術・意識の向上

・26 年度より博物館クラウド(I.B.MUSEUM SaaS)を導入し、資料の管理をデジタル化。館全体で情報を共有する体制を整備し、資料の有効活用を進めている。

・資料の適正な保管及び展示のため、収蔵庫や展示室内の温湿度データを収集・分析し、館内で情報共有するなど、各部署が連携しながら適切な環境の維持に努めている。

・26 年度から取り組んでいる、有害虫駆除の予防策(IPM)の活動を継続し、職員全員が交代で毎日開館前に点検を行うことで、展示環境保全に関する意識を高めるとともに実質的な成果も出ている。

3) 資料の整理・管理

・新規資料や未登録資料の登録及び旧システムにおいて不備があった情報の補完等の更新作業を実施。一部資料について、ホームページを通じてデータベースを公開した。

新規登録 1,999 点 更新資料 45,281 点

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作家や関係者と良好な関係を維持し、貴重な資料の寄贈・寄託につなげており、平時の地道な積み重ねが成果として表れている。 ・良好な保存・展示環境を作ることでリスクを軽減するという活動に取り組んでおり、常に保存・展示環境に気を配る習慣を身につける努力が認められる。

評価項目

職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進め、その成果を、展示や広報媒体などを通じて、広く公開する

状況説明

- 1) 所蔵資料の調査研究
 - ・所蔵資料を体系的に分類・整理し、常設展示室での顕彰作家のローテーション展示紹介の基礎研究資料としている。
- 2) 県内外の文学館施設の交流
 - ・全国文学館協議会、瀬戸内文学館連絡協議会、ミュージアムネットワーク等へ参加し、県内外の文学館施設との交流を通じて、情報交換や専門性の向上に寄与する活動を行っている。
- 3) 常設展における公開
 - ・岡本弥太、浜本浩、坂東眞砂子を紹介し、高知の文学者と作品の魅力をわかりやすく伝えた。
- 4) 企画展
 - ・高知県ゆかりの作家を顕彰し紹介する企画展を2本行った。
- 5) 文学研究誌等への寄稿や講演
 - ・同人俳誌「勾玉」に「高知の俳人・若尾瀾水」や、物理系の科学者が中心となって書いた随筆や評論などを集めた雑誌「窮理」に「窮理の種」を連載。
 - ・市民生涯大学・シルバー大学・教育関係者研修会・高知大学等で講義を行った。
- 6) 広報媒体での公開
 - ・最新情報はホームページやSNS等で随時発信し、情報項目の内容の充実等を図った。
 - ・季刊報「藤並の森」を発行し、当館のホットな情報を県内外の関係機関等に提供した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵資料の調査研究に継続して取り組み、成果報告として、顕彰作家のローテーション展示を行っている。 ・県内外の文学館施設と交流し、情報交換や専門性の向上に寄与する活動を継続して行っていることが認められる。 ・雑誌での連載や文学学校、シルバー大学、高知大学で講義を行うなど、より多くの県民へ文学の魅力を広めることができている。 ・館の最新情報について、随時発信していることが認められる。

要求水準－展示・公開

優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の愉しさを伝える

評価項目

- (1) 新鮮さと変化が感じられる常設展示や、時代の変化を踏まえ、様々な年代の知的好奇心に触れる企画展示を行い、5年間で11万人以上の観覧者を目指す
- (2) 次代を担う子どもたちに喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う
- (3) ギャラリートークの実施など、来館者の理解が深まる取り組みを行う

状況説明

- 1) 常設展示室
 - ・ローテーション方式での展示の入替や、宮尾文学の世界では、『宮尾登美子の軌跡』の展示を行った。
 - ・企画コーナーでは逝去された詩人・猪野睦を偲び、追悼展を開催した。
- 2) 企画展示室
 - ・10連休だったゴールデンウィーク期間中には、公開されることの少ない収蔵品を特別に公開した。
 - ・「高知100年文学展」(1,864人)、「みんなだいすき！はたらくのりものだいしゅうごう！！」(10,682人)、「言葉のチカラ、声の魔法展」(2,726人)、「馬場孤蝶 生誕150年記念展」(1,012人)、「ヒグチユウコ展」(5,866人)
- 3) 子どもの創造性豊かな心を育む取組
 - ・「みんなだいすき！はたらくのりものだいしゅうごう！！」では、小さな子どもも楽しめるよう工夫を凝らした体験型展示を行い、幅広い年齢の子ども達に絵本の世界に親しんでもらうことができた。また、幼保向け団体プログラムを実施し、12園の参加があった。
 - ・「言葉のチカラ、声の魔法展」では、「言葉の力」をテーマに、様々な角度から文学作品の楽しみ方を提案し、文学の新たな表現の可能性を感じた。
 - ・「おはなしキャラバン」による読み聴かせ活動の実施。(実績：館外45回 館内10回、3,422名)
- 4) 来館者の理解を深める取組
 - ・企画展開催中は、毎週土曜日に担当学芸員によるギャラリートークを実施。(60回 1,130名参加)
 - ・年間を通じて、団体等の来館にあわせて担当者による展示解説を実施。
 - ・展覧会では関連企画として、本人や研究者等の講演会、対談、DVD等映像での解説を実施。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・高知県の文学作家の顕彰を中心に、様々な年齢層を対象にした質の高い展覧会を実施しており、企画展観覧者数は22,150人(対前年度100%)と、コロナによる休館もあったが年間目標値である21,500人を達成した。・子どもに関心の高い企画展等を実施することで、子どもたちが文学に興味を持ち、文学館に訪れるきっかけを作ることができている。・ギャラリートークや解説、関連企画等を積極的に実施し、見るだけでは伝わらない担当者の思いや作品の背景を伝えることにより、来館者の理解が深まる取り組みを行っている。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、来館者の文学への関心を高める
- (2) 文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる

状況説明

- ・文学マイスター講座(年9回)では、高知ゆかりの詩人にスポットを当て、造詣の深い講師による専門的な講義を行い、全講座を受講した5名を文学マイスターに認定。
- ・児童生徒文学作品朗読コンクールでは、特別審査員に 高知県出身の人気声優・島本須美氏を招き、「本の中には『うわ〜!』がいっぱい」と題して記念講演会を行い、子どもたちの学びの場とした。
- ・市民講座・生涯大学等への講師依頼を受けて館の職員が出前講座を実施。
- ・児童クラブや福祉施設などからの要請を受けての出張おはなしキャラバンや出張朗読を実施。
- ・企画展開催中の土曜日には展示解説を行うとともに、年間を通じて定期的に教育普及事業を実施。(第1:おはなしキャラバン、第2:語りと紙芝居の会定例会、第3:朗読の会、第4:文学マイスター講座)
- ・博物館実習、小中高や専門学校、大学等の授業と関連した団体鑑賞を例年受け入れている。
- ・「朗読の会」はお客様の前での発表の場を月1回設けて実践経験も積み、会員のスキルを深めている。
- ・市原麟一郎さんを中心に語りや紙芝居の演じ方を学ぶ定例会を毎月行い、会員による発表の場も設けている。
- ・古文書読解の上級者を会員として、当館所蔵の近世文学資料により「近世土佐文学研究会」を当館で週一回行い、サークルを支援するとともに、当館所蔵の近世文学資料の調査研究にも役立てている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・文学マイスター講座や児童生徒文学作品朗読コンクールの開催をはじめ、職員の講師派遣やおはなしキャラバン等のアウトリーチ活動を積極的に展開するなど、多彩な教育プログラムが実施されている。・朗読の会の会員スキルの向上や、文学研究会への館所蔵資料の提供などにより、文学活動に取り組む団体や個人の活動支援が行われたと認められる。

評価項目

高知の文学に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

1) 広報媒体の活用

- ・新聞・テレビ・ラジオや各種情報誌などへ積極的な情報提供を行い、タイムリーな情報発信を行った。
- ・ポスター・チラシの配布にあたっては、高知市内、県内の道の駅などにも出向いて依頼し、広報密度を高めている。
- ・寺田寅彦の随筆「科学絵本 茶碗の湯」の文学解説の掲載や、新聞の学芸欄等への連載など、紙面を通して情報発信を行った。
- ・最新情報を随時ホームページで発信しており、また、SNSも活用し、幅広い層への情報提供を行った。

2) 講演会への職員派遣

- ・市民生涯大学・シルバー大学・教育関係者研修会・高知大学等において講師を努め、高知県の文学全般や展覧会のことなどを広く伝えた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体を利用して企画展等の情報を発信し、ホームページの活用なども含め、積極的に戦略的な広報活動が行われている。 ・講演会などを通じて、高知の文学について、広く伝える取り組みが行われていると認められる。

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

1) 文学館・博物館との連携

- ・各企画展において、関係する県外の文化施設(文学館、図書館、博物館等々)との展示構成における資料の貸し借りや情報交換を行い、高知県所有資料だけでなく、県外文化施設の所有資料も展示することができている。
- ・「全国文学館協議会」や「瀬戸内文学館連絡協議会」へ加入し、情報交換や意見交換により、日頃から関係を深め、展覧会等での協力体制の円滑化や強化に努めた。
- ・全国文学館協議会共同企画に参加し、「3.11 文学館からのメッセージ 寺田寅彦と地震 7・8 高知の作家が向き合った地震」を行った。
- ・こうちミュージアムネットワークや高知お城下文化施設の会に加入し、県内の文化施設との連携や情報共有に努めた。

2) その他の連携

- ・子ども企画などを扱っている民間会社などとの情報交換を密にし、時代のニーズや各社の企画などの情報の入手に努めている。
- ・「言葉のチカラ、声の魔法展」では、こうちまんがフェスティバルとコラボしてスタンプラリーや声優のトーク&サイン会を開催した。
- ・「馬場孤蝶 生誕 150 年記念展」では、藤村記念館、一葉記念館より、資料等を借用して展示した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の文学館組織や文化施設等との連携を図り、より魅力ある企画展の開催や巡回展の誘致につなげている。 ・「高知お城下文化施設の会」での活動を行うなど、分野を超えた連携を積極的に行っている。 ・「言葉のチカラ、声の魔法展」では、こうちまんがフェスティバルとの連携により展示に関するイベントの充実が図られた。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- 1)社会的責任
 ・公益財団法人高知県文化財団の各種規程により、法令を遵守した管理運営を行っている。
- 2)建物や設備の管理
 <主な修繕等の実績>
 ・中庭防鳥ネット交換
 ・茶室「慶雲庵」竹垣修繕
 ・展示ローケース鍵修繕
 ・来館者用エレベータードア基盤交換
 ・こどものぶんがく室ジョイントマット、民話コーナー張替
 ・収蔵庫3加湿器給水管修繕
 ・収蔵庫燻蒸
 ・外気温湿度センサー交換
 ・周辺通路碎石補充及び張石補修
 ・常設展示室ダウンライト、来館者用トイレ、こどものぶんがく室 LED 交換
 ・無停電電源装置設置
 ・ショップ用防犯カメラ設置
 ・茶室、中庭、藤並の森樹木剪定
 ・施設の保守管理・点検は、空調・電気・清掃・機械設備等を中心に、入札等で選定した業者に委託して行っている。
- 3)危機管理
 ・風水害、地震、火災等の危機管理については、防火管理者を選定し対応マニュアルに沿って管理している。
 ・安否確認や緊急時の行動などを記載した緊急対応ポケットカードを作成し、全職員に配布した。
 ・文化財団業務継続計画に基づいて、文学館の非常時対応マニュアルを作成し、職員に周知した。

評価	理由
A	・建物・設備の管理では、事前に修理を行い、観覧者の安全性や快適性を保つとともに、緊急対応ポケットカードの配布なども行い、適切な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<p>1) 利用者の意見の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査や直接職員が受けた意見等を全職員で共有し、様々な年齢層の方に満足していただける企画開催をはじめ、サービス向上のための基礎資料として活用し、良好な施設づくりに取り組んだ。 <p>2) 自己点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の定例会において、職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んだ。 <p>3) 職員の専門性の向上と研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国文学館協議会や瀬戸内文学館連絡協議会での専門研修や文化庁主催の「博物館学芸員専門講座」など各種研修会に積極的に参加し、それぞれの専門分野の知識向上スキルアップに努めた。 ・県外の展覧会視察や民間の展示方法等の研究により発想力を研鑽し企画展や催事を行い、顧客サービスの改善に努めた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートの実施により、利用者サービスの維持向上に努めている。 ・職員の専門性の向上により、展示環境改善へ繋がっている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<p>1)利用実績の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日数 339日 うち企画展開催日数 273日(H30実績 356日 うち企画展開催日数 292日) ・総利用者数 49,473人(H30実績 51,628人 対前年度比 96%) うち常設展観覧者数 1,427人(H30実績 2,193人 対前年度比 65%) うち企画展観覧者数 22,150人(H30実績 22,175人 対前年度比 100%) うち教育普及事業参加者数 18,108人(H30実績 15,817人 対前年度比 114%) うちホール・茶室利用者数 7,788人(H30実績 11,443人 対前年度比 68%) <p>2)開催状況 (企画展)</p> <p>オリジナル展4本、巡回展1本を開催。平成最後の区切りの年を迎え、100年の高知の文学を振り返る展覧会や郷土ゆかりの作家、郷土を舞台とした作品、著名な作品・作家、子どもやご家族連れで楽しめる文学の幅広い楽しみ方などをテーマに開催した。</p> <p>(常設展、企画コーナー、特別室)</p> <p>常設展示室では、収蔵資料を中心にローテーション方式で入れ替えを行い、企画コーナーでは、平成30年8月3日に88歳で逝去された詩人・猪野睦を偲び、追悼展を開催した。「寺田寅彦記念室」では、全国文学館協議会共同企画「3.11 文学館からのメッセージ」に参加し、「寺田寅彦と地震7・8 高知の作家が向き合った地震」を開催、「宮尾文学の世界室」では「宮尾登美子の軌跡」と題し、『櫂』をはじめとする自伝四部作や、その周辺作品である『陽暉楼』『岩伍覚え書』『寒椿』など花街にかかわる作品を掘り下げ、直筆原稿など貴重な資料とともに紹介した。</p>

評価	理由
A	・コロナウイルス感染拡大防止のための休館の影響などにより、総利用者数などが減少したが、企画展観覧者数は目標観覧者数の21,500人を上回っている。

評価項目		
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<p>1)収入増加の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「優良な企画展の開催といつ来ても新鮮な常設展」を合い言葉に観覧者の来館推進を図った。 ・ミュージアムショップにおいて企画展と連動したグッズの販売促進を行った。 <p>2)経費削減の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費の中で一番大きなウェイトを占める電気料の削減について、不用な部分のこまめな消灯、空調機器の一斉稼働の防止(デマンド上昇の回避)、照明器具のLED化等により、消費電力の削減を図った。 ・消耗品の在庫見直しによる無駄な購入の防止、コピー機・印刷機の有効活用による使用料削減等を行った。 ・展示物のキャプションやデザインを自作することにより委託料や印刷費の削減を行った。

評価	理由
A	ミュージアムショップの商品販売や、展示物等の職員の自作など、工夫を凝らした取り組みの努力が認められる。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の計画的充実や、魅力ある企画展の開催、データ分析に基づいた戦略的情報発信など、日ごろからの地道な取り組みが評価できる。 ・子ども向けの企画展では体験展示を、「言葉のチカラ、声の魔法展」では様々な角度から文学作品の楽しみ方を提案するなど、より文学を身近に感じてもらえるよう新たな試みに挑戦していることが認められる。 ・企画展観覧者数の年間目標である 21,500 人を達成している。 ・職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んでおり、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。